

夏休み

やってみよう☆
(やってみよう☆)

りんご染

津軽のお土産物店で目にする『りんご染』、
様々な商品とカラーバリエーションがあります。
夏休みに畑作業をお手伝いして
お家で草木染め体験をしてみよう！

りんご染

今回『りんご染』の第一人者である佐藤芳子さんの工房へ取材に伺いました。夏休み直前企画として、自宅でもできるハンカチ染めの方法をご紹介します！

材料

- りんごの葉（ハンカチの重さの同量～3倍）
- ハンカチ
（綿・麻・絹がお勧め）
- 豆乳
- 炭酸ナトリウム
- ミョウバンか焼きミョウバン
- ボウルや洗面器など容器2個
- 輪ゴム3本
- ステンレスかホーローの鍋
- ザル
- ゴム手袋

合は倍量の水で薄めた豆乳に30分以上浸け、繊維にタンパク質を入れます（絹はやらなくてもOK）。洗濯機で30秒ほど脱水し干します。

●『煮出し+媒染処理』

葉をザブザブと洗い、ひたひたの熱湯に入れ、炭酸ナトリウムを小さじ1杯入れて20分程煮出します。ザルで葉をこし、煮出した液を冷まします。

冷めたら色止めの為に媒染処理をします。ハンカチの重量の10%のミョウバンを入れ溶かし、たら作業スタートです◎

下準備

●『濃染処理』発色をよくする。
ハンカチを10分ほど煮沸し汚れを落としてから、綿・麻の場



山折り谷折りを繰り返す

やってみよう☆

1. ハンカチを屏風畳みする。
一部を巻き込むような折り方だと、内側の部分に染液が入らず染まらなくなります。

2. 輪ゴム3本でしっかりと引っくる。
「ギリッと」くくる。くくった部分が白く柄として残ります。



しっかり揉み込み20分



どんな柄になるかな？

3. 水と染液へ浸す。
染液が染み込みやすいように、一度しっかり水を浸透させてから、ニョウバンを溶かした染液へ浸す。折り目の内側にもしっかりと色が入るよう20分間揉み込む。



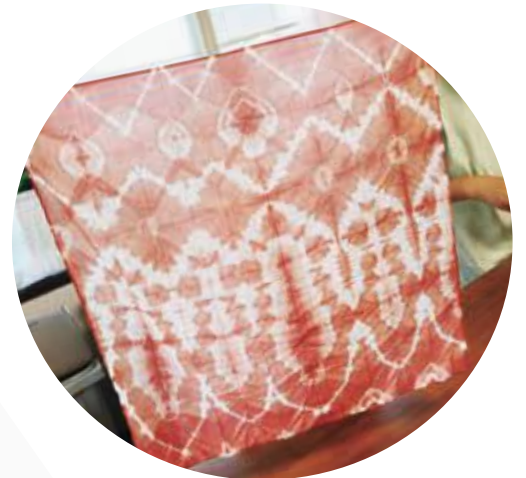
しっかりすすぐ

5. 染液10分と、最後のすすぎ。再度染液へ浸し、今度は10分間揉み込む。その後、色が落ちなくなるまで水ですすぐ。

4. 水で2回ほどすすぐ。
色が落ちなくなるまで水ですすぐ。絞る時は輪ゴムが切れないように、手のひらで押すように絞る。



実すぐりした実(ピンク)、葉取りの葉(黄)、剪定枝(オレンジ)、ジャムに使用した後の皮(黄緑)の染物



予想外の柄があらわれた！

6. 完成
輪ゴムを取り、アイロンがけをしたら完成☆

注意事項

市販品とは違った良さがありますが、色が抜けやすいため手洗いでのご使用をお勧めします。

今回撮影した染物は、濃い赤色でした。葉を利用した場合は何色になるか、染めてみてのお楽しみ！季節を変えてチャレンジしたくなる、この土地ならではの体験です。



りんご染歴20数年の
佐藤芳子さん

「りんご染の後継者を育てることが今後の課題です」とチャーミングな笑顔で話してくれました。
現在も加工品を作りながら、染物を使った新商品も考案、様々な団体や催しで体験会を開いています。

佐藤 芳子さん
相馬地区坂市出身。20歳でりんご農家へ嫁いだから30年間、農作業の傍らジャムなどの加工品作りに勤しんでいました。
50歳の頃、今度は「りんご作業の過程で出る廃材を活かしたい」と一念発起し、自ら考案したりんご染を実践すべく、染物について学ぶため京都へ足を運び、弘前市船沢地区のご自宅に『りんご工房』を構えました。